

会議録  
令和5年度 第3回総合教育会議

- 1 日 時 令和6年3月19日（火曜日）  
午後2時45分～午後4時15分
  
- 2 場 所 中央図書館2階 視聴覚ホール
  
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
教育長 山口 武士  
委員 宮 陽一  
委員 深井 美千代  
委員 横田 豊三郎  
委員 深野 はるみ
  
- 4 署名委員 委員 宮 陽一  
委員 横田 豊三郎
  
- 5 説明職員 教育部長 磯谷 雅之  
学校統括監 武田 圭介  
学校教育課長 大竹 宏治  
学校教育課指導主事 矢場 友道
  
- 6 事務局職員 政策財務部長 水口 知詩  
政策企画課長 荒田 和久  
政策企画課副課長 甲佐 隆志  
政策企画課主任 須堯 陸海
  
- 7 傍聴者 0人
  
- 8 議 事 富士見市児童生徒の体力の現状について

**【星野市長】**

皆様こんにちは。令和5年度第3回総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。日頃から本市の教育振興及び行政全般にわたりましてご理解ご協力を賜っておりますことも併せてお礼申し上げます。

さて、富士見市議会の3月定例会が2月20日に開会され、明後日が最終日となっております。定例会の中で、深井委員の教育委員再任についての人事案につきましても無事に可決をいただいておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

また、令和6年度予算でございますが、406億円という過去最高額を計上しております。本市におきましては、平成の終わりから今日まで、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、税収などが若干落ち込む時期はございましたが、人口の増加とともに税収確保についても堅調に伸びてきております。そうした市民の皆様のご努力等をいただきながら、令和6年度予算を計上させていただきました。

この中には、新市庁舎の設計に関する予算や、中央防災センター予定地の購入予算などを入れさせていただいております。その他にも、市民の安全を守ることや、子どもたちの教育環境を整備し、教育を振興することにつきましても予算の中に入れさせていただいたところでございます。

さて、本日のタイトルでございますが、児童生徒の体力の現状につきましては、令和4年度第2回総合教育会議でも様々なご議論をいただきました。今回は、前回の会議以降、学校現場における新たな取組や今後の課題などをご報告させていただき、委員の皆様から、ご意見を賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**【荒田政策企画課長】**

星野市長ありがとうございます。

それでは、以降の進行につきましては、星野市長にお願いさせていただきます。

星野市長、よろしくお願いいたします。

**【星野市長】**

それでは会議に移らせていただきます。議事に入る前に、本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員に、宮委員と横田委員をご指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事は、「富士見市児童生徒の体力の現状について」でございます。

冒頭のあいさつの中でも触れさせていただきましたが、本議題につきましては令和4年度第2回の会議にて取り扱いをさせていただいております。

それでは、学校教育課 矢場指導主事、よろしくお願いいたします。

**【学校教育課矢場指導主事】**

(富士見市児童生徒の体力の現状について説明)

### 【星野市長】

ありがとうございました。それでは、委員の皆様方からご意見ご質問などを頂戴したいと考えておりますが、資料1の2ページの「本日の流れ」の項目に沿って議論を進めさせていただきます。

最初に、大きな1番「体力の現状」の中で、体力テスト結果や運動習慣等調査等のデータを基にご報告をいただきましたので、この内容についてご意見を頂戴したいと思います。

### 【宮委員】

細かいところまで調査から分析まで行っていただきましてありがとうございます。本市の体力課題として敏捷性を掲げておりますが、握力やボール投げなどの数値が上がってきているため、敏捷性を課題としているという認識でよろしいでしょうか。

### 【学校教育課矢場指導主事】

本市では、握力についても伸び悩んでおり、現在でも課題ではあると考えています。体力課題を敏捷性に設定している理由といたしましては、敏捷性を高めることにより、50m走や反復横跳びなど、様々な記録の向上にもつながるため、平成29年度から敏捷性を課題として継続的に取り組んでいるところです。また、ボール投げなどにつきましては、本市では県の記録に近く、中には上回っている種目があるくらい良い結果となっております。

### 【横田委員】

新体力テストのA+B+Cの児童生徒の割合は、県と市の比較をされておりますが、前回の会議では、中学校の体力は県とあまり差がなく、小学校の体力の方が差は大きいという報告を受けた記憶があります。最新の令和5年度のテスト結果を見ると、小学生は右肩上がりの一方、中学生が極端に下がっています。また、運動が「好き・やや好き」の割合の中で、令和4年度の中学2年生の女子が67.4%となっており、約10人に3人はあまり好きじゃないということを表していると思います。先ほどの中学生の体力テストの結果が低下したことも含め、これらの原因は把握されているのでしょうか。

### 【学校教育課矢場指導主事】

中学校は令和3年度までは県平均と同等で推移しておりましたが、徐々に下降をたどっていて、令和5年度に大きく差が開いている状況です。この要因の一つとして、部活動の時間短縮が考えられます。この他にも、体育の授業の質なども関わってくる部分でもあると思いますので、しっかり分析を行い、今後のよりよい授業づくりに向けて努めていきたいと思っております。そして、運動が「好き・やや好き」の割合につきましては、特に女子の結果が本市の大きな課題となっております。こちらにつき

ましても、体力向上を意識するがゆえに、トレーニング的な取り組みが多くなっていることや、コロナ禍による影響もあるかと思います。今後、授業研究会を通して、子どもたちが楽しめるような授業づくりに取り組んでいきたいと思っております。

#### 【横田委員】

中学校の体力テスト結果において、部活動の時間短縮が一つの要因であるという説明がありましたが、これは本市に限らず全県も含めて同様なのではないかと思います。そのため、本市の状況が他の市町と極端に違う場合は別ですが、同様の悩みを抱えている中で、このような差が生じていることについて、より深く分析をする価値があるのではないかと思います。

#### 【学校教育課矢場指導主事】

中学校の体力低下の原因につきましては、部活動の時間短縮も一因としてはあるかと思いますが、スクリーンタイムが大幅に増加していることも要因の一つとして考えております。コロナ禍の中で、子どもたちの過ごし方が変化してきており、テレビ視聴や、スマートフォン、ゲームなどを扱う時間が非常に伸びたというところも要因の一つとしてはあるのかなというふうに捉えています。しかしながら、スクリーンタイムは小学校においても増加しているにもかかわらず、小学校では体力が向上しているため、複数ある要因の一つとして考えていく必要があると捉えております。

#### 【深井委員】

体力低下の原因の一つとして、子どもたちが自由に遊ぶ場所、体力を少しずつ積み重ねていく場所が少なくなっているということが挙げられるのではないかと思います。小学校1年生から少しずつ遊びの中で握力をつけていく、持久力をつけていくなど。積み重ねていけるような場所づくりも必要なのかなと思いました。

あまり関係ないかもしれませんが、学校にジャングルジムがあったと思いますが、自分の身体を登らせることで握力がついたりとかして少しずつ身体を動かすことが大好きになっていくのではないかと思います。最近では遊具も古くなり、撤去されてしまうものも多いですが、子どもたちが遊べる遊具を残すことも大事なのではないかと思います。

#### 【学校教育課矢場指導主事】

老朽化などで遊具を撤去するなどしており、子どもの遊べる場所が減っている現状もあると思います。その中で、来年度にラバーリング200個を小学校に配布する予定となっております。使い方の一例としましては、いろいろな色のリングがあるため、校庭にたくさん置くことによって、例えば赤に入りましようとか、青に入りましようとかという指示を出すことによって楽しく活動ができるなど、様々な活用の仕方を、

これからも考えてまいります。こういったものをきっかけとして、子どもたちの遊ぶ機会を増やしていけたらなと考えているところです。

#### 【星野市長】

つるせ台小学校の芝生化により、体力向上の側面に関しては現時点では良い結果につながらないということでしょうか。一方で、怪我については劇的に減少しているというデータがありますが、気持ちよく伸び伸びと、怪我をおそれず、いろんなものにチャレンジできるというところがあるかと思いますがいかがでしょうか。

#### 【学校教育課矢場指導主事】

種目によっても差が生じるのではないかと感じています。先日、つるせ台小学校でタグラグビーの授業を行った際には、通常の校庭だとやっぱり走ったときに転んでけがをする恐怖感があると、思い切り動けないところではありますが、つるせ台小学校の子どもたちは本当に思いっきり走って全力を出し切って汗を流している場面をたくさん見られました。それもタグラグビーだけじゃなくて様々な種目でもあるかと思っています。しかしながら、例えばバスケットボールとかを校庭でやるとボールがイレギュラーでバウンドしてしまうなどのやりにくさもあるため、メリットもデメリットもあると思っております。そのため、例えば50m走の記録を取る場合には、芝生ではなく走りやすい場所で測定をすることなどの工夫をすることにより、体力テストの結果は変わってくるのではないかと思っております。

#### 【山口教育長】

芝生化する前に収集した鴻巣市の先行事例では、特に50m走の記録が落ちるといいう結果はないという検証結果が出ておりましたので、つるせ台小学校の芝生化の効果については、もう少し時間を見ていただきたいと思います。

また、深井委員から遊具についてお話をいただきましたが、老朽化した遊具については順次更新をしております。特にジャングルジムについては必要な遊具であると捉えているので、すべての小学校に残しています。

これまでは、市内の中学校の体力は、全国を上回り、県平均とも肉薄している印象であり、小学校が下回っているという印象でしたので、ここ数年間は、特に小学校に力を入れて取り組みを改善してまいりました。その大きな取り組みの一つが来年度に向けた予算化ということで進めているところですが、逆に中学校が令和5年度の結果で見ると大きく下回ったことが大変ショックでございまして、これについては、もっと要因を分析していく必要があると思っております。また、現在は学校教育の視点での取り組みや結果の話をしておりますが、体力向上については、今後、日常生活も含めて考えていく必要があると考えております。

**【星野市長】**

続きまして大きな2番、体力向上に向けた取組と、大きな3番、目指す成果（ゴール）の部分について、ご意見を頂戴したいと思います。

**【横田委員】**

前回、「GIGAスクール構想の進捗について」を議事とした会議のときに、ICT教育についてのお話をいただきましたが、体育の授業におけるICTの効果的な活用は、具体的にどのようなことが考えられるのでしょうか。

また、以前も質問した記憶がありますが、目指す成果において、1時間の授業の中で運動量を70%以上確保するという説明がありますが、最近の動向として文科省が授業時間を5分間短縮することを検討しています。1コマの授業時間が、中学校は50分が45分、小学校は45分が40分と短縮された場合、授業の中で運動量を70%以上確保することを目指すのは机上の空論となってしまうのではないかと感じています。

例えば、授業時間の短縮により生じた余暇の時間で体力向上の取組を各学校で実施するよう、啓蒙していくのであれば分かりますが、授業時間が短縮された場合、自明の理として子どもたちの体力は低下していくものと感じますが、この点についてはいかがでしょうか。

**【学校教育課矢場指導主事】**

ICTの活用については、例えば跳び箱の授業であれば、単元の導入時にオリンピック選手などの素晴らしい演技を見て、意欲付けのために使用したり、授業の中で自分の動きと友達の良い動きを比較しながら何ができていないのかを動画で視覚的に学んだりすることで自分の課題を明確化し、自分の思考判断を深めるために使用したりするなど、各校で様々な工夫しながら活用していただいております。

続いて、運動量を70%以上確保することについて、体力を向上させるためには、運動しない限りは体力が高められないと考えているため目標として設定しています。一方で、これからの時代は様々な変化が起きることが想定されるため、余暇の時間で体力を向上させることや、授業における運動量の確保についても検討していく必要があると思っています。また、子どもたちの体力が低下してきている状況の中で、現在の子どもたちが大人になったときに、どれだけ体力が維持できているのかなど、体力の重要性についても教員が子どもたちに教えていかなければならないものと捉えています。

**【横田委員】**

子どもたちの動きを撮影して、良い動きを学んでいくことも一つの活用方法であると思います。一方で、ICTを効果的に活用することで教員の授業力の向上にもつながるのではないかと考えますが、取組状況などを伺えますでしょうか。

**【学校教育課矢場指導主事】**

I C Tの効果的な活用方法について、体力向上推進委員会の中で、例えば、反復横跳びの効果的なやり方を動画で撮影して、各校で共有を図る取組などを全校に広げていけば良いのではないかという意見がありました。このような取組については体力向上だけではなく、働き方改革にもつながると考えておりますので、活用を検討していきたいと考えております。

**【星野市長】**

横田委員の説明を聞いて、1時間の授業の中で運動量を70%以上確保することが難しくなるというのは理解しました。授業時間中の運動量を確保するための案として、体育の授業を2時間連続で行うのは難しいでしょうか。

**【学校教育課矢場指導主事】**

プールの授業では2時間連続としているため、運用としては可能だと思います。しかしながら、実情としてはプール以外の体育の授業で2時間連続としている例はあまり聞いたことはありません。

**【大竹学校教育課長】**

2時間連続での授業について、例えば小学校低学年で実施する場合、集中力を保つことが課題となるなど、授業の時間が長ければそれだけ運動ができるわけではないという実態もございます。

70%という目標を定めているのは、実際に授業を見させていただくと、先生の説明が長く、子どもが実際に運動している時間が少ない授業が多くみられます。先生の説明が長いことにより、子どもたちはたくさん運動したいのに、その欲求が満たされないという現状もあるため、先生たちが話したりする時間は極力減らして、子どもたちが動ける時間をたくさん作っていきましょうという目安として、私達は70%を目標にしているところです。

**【深井委員】**

授業以外の取組として、小学校4年生から始まるクラブ活動を3年生から少しずつ始められるようにすることや、クラブ活動で運動を多く行えるようにすることはできるのでしょうか。

**【武田学校統括監】**

クラブ活動については、指導要領において特別活動の範囲の中で4年生から実施するというのが定められております。3年生の総合的な学習の時間の中で体力向上に取

り組むことも考えられますが、現在はSTEM教育にも力を入れていることから、体力向上だけではなく、バランスよく実施していく必要があります。

このような状況の中で、授業の質を高めることで子どもたちが運動に親しめるようになり、日常生活の中でも運動をやってみようというようなところまで持っていけると、体力が向上していくものと考えます。そのきっかけづくりとして、子どもがより効率よく運動を行うことができ、運動が好きになるような取組について、体力向上推進委員会を中心として研究しているところです。

#### 【横田委員】

個人的な話になりますが、地元の近くに相撲の土俵があったため、小学校に入る前から兄弟で相撲を経験してきました。倒れ方であったり、足の親指で地面をつかむ感覚であったり、まわしをつかむときの握力、脇の締め方などを自然と学ぶことができました。今思うと、子どもの頃に相撲を経験したことは他のスポーツなどを行う上でも、良い影響があったのではないかと考えています。

このようなことを考えたときに、芝生化されている、つるせ台小学校の校庭では倒れても怪我が少ないということを手にとり、格技などを取り入れることを考えてみてもよいのではないかと考えています。

#### 【学校教育課矢場指導主事】

押し相撲をしたり、おんぶをしたりとか、身体が触れ合いながら体力を高める学習として、体づくり運動というものがあります。通常は体育館で実施することが多いですが、横田委員のご意見を踏まえ、芝生化した校庭の特色を活かした体づくり運動の取組を検討していきたいと思っています。

#### 【宮委員】

体育の限られた時間数だけで、体力の向上を図るのは限界があるため、日常生活の中でも体力の向上を取り入れていく必要があると思います。日常生活の中というところ、小学生では遊びという形にはなるとは思いますが、家庭向けに発行している広報「いきいき体力」などを活用し、啓発していくことができるのではないのでしょうか。私が校長のときに経験したことですが、子どもの握力が低いことから、掃除をするときに雑巾をしっかりと絞るよう促していました。最初はうまく雑巾を絞ることができなかつた子どもたちも毎日雑巾絞りをを行うことで握力も付いてくるのではないかと感じていました。このようなことを家庭に啓発していくこともやってみる価値はあるのではないかと考えています。

#### 【山口教育長】

学力と同様に、体力を高めるには質と量の両方が必要であり、先ほどから量の話も出ていますが、今の学校教育に置かれている状況からすると何か時間を増やすことは

大変厳しく、減らす方向で考えざるを得ない状況です。体育の授業数は、以前は年間105時間、週に3時間でしたが、今では年間90時間、週に落とすと2.7時間となっており、週に3時間もできない状況となっております。その中で体力を向上させるためには、質とともに意欲をどう高めるかというのを追求していく必要があるということをご理解いただければと思います。

#### 【星野市長】

学校の授業で体を動かすことの面白さを覚えたときに、次にバスケットボールや野球などのスポーツにつながっていけば、小学校から中学校、高校、大学生と一生の宝物になるようなものになってくのではないかと考えております。

3月に2回ほど少年野球大会の開会式に出席してまいりましたが、以前は各小学校にチームがありましたが、今では児童が少なく合同チームで出場しているような状況となっております。これは、子どもの野球離れなのか、サッカーなどのスポーツが人気なのか、スポーツに興味がない子どもが増えているのかなどの原因が考えられますが、現場を見ている先生方に、実態をどう捉えているのかを伺えればと思います。

#### 【学校教育課矢場指導主事】

野球に関しては各学校で、安全を確保するためにボールを投げて良い場所に制限をかけていることにより、子どもたちが野球に触れる機会が減少していると思います。しかしながら、野球であればピッチャーが投げたボールを打つのは難しいのでティーにボールを置いた状態でバットを振る、ティーボールというような形で簡易化した運動に置き換えることで、どの子どもでも楽しめる取組も行っております。

#### 【武田学校統括監】

現在は、子どもが加入するクラブ活動について、保護者のニーズや感覚が大きく関係しているのではないかと考えています。野球は練習時間が長いことや保護者が役員として参加しなければならぬため、家族での時間が少なくなるというようなことが野球をする子どもたちが減少している理由だと思います。一方で、どうしても野球をやりたい子どもの熱意に親が負けて入るとか、親が野球をやっていたから入るといったような事例もあります。

また、バスケットボールやサッカー、水泳などの選択肢が増えてきていることも要因の一つと感じています。

#### 【山口教育長】

これまで、小学校、中学校の話をしてきましたが、高校から大学にかけても、スポーツに触れる機会がかなり減っていると聞いています。コロナ禍の影響でサークル活動も少なくなり、大学生同士で何かを一緒にやるという機会が激減しているそうです。そうすると、その人たちが親になったときに自分の子どもにスポーツをさせるように

なるかというのを考えると、ますます厳しくなっていくのではないかと思います。このことも踏まえると、学校教育において体育の授業を通してどこまで質を高めて上げていくのかということがベースになると思います。引き続き、学校教育でできることを一生懸命取り組んでまいりたいと思います。

**【星野市長】**

本日は、学校における体力の現状や取組、目指す成果などのご報告をいただき、多くのご質疑、ご意見を頂戴いたしました。今後も、学校教育における体力の向上について、目標の達成に向けて頑張っていたいただきたいと思います。

子どもたちが元気で学校に通えることはもちろんですが、将来的には、野球や水球、卓球などのオリンピックが誕生することも少し期待しております。

それでは、本日予定しておりました議事は終了いたしましたので、事務局から、連絡事項等があればお願いします。

**【荒田政策企画課長】**

事務局から1点ご報告がございます。本日の議事録署名委員に指名されております、宮委員と横田委員におかれましては、議事録がまとまり次第、ご署名をよろしく願いいたします。

**【星野市長】**

それでは、以上をもちまして、令和5年度第3回総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。